

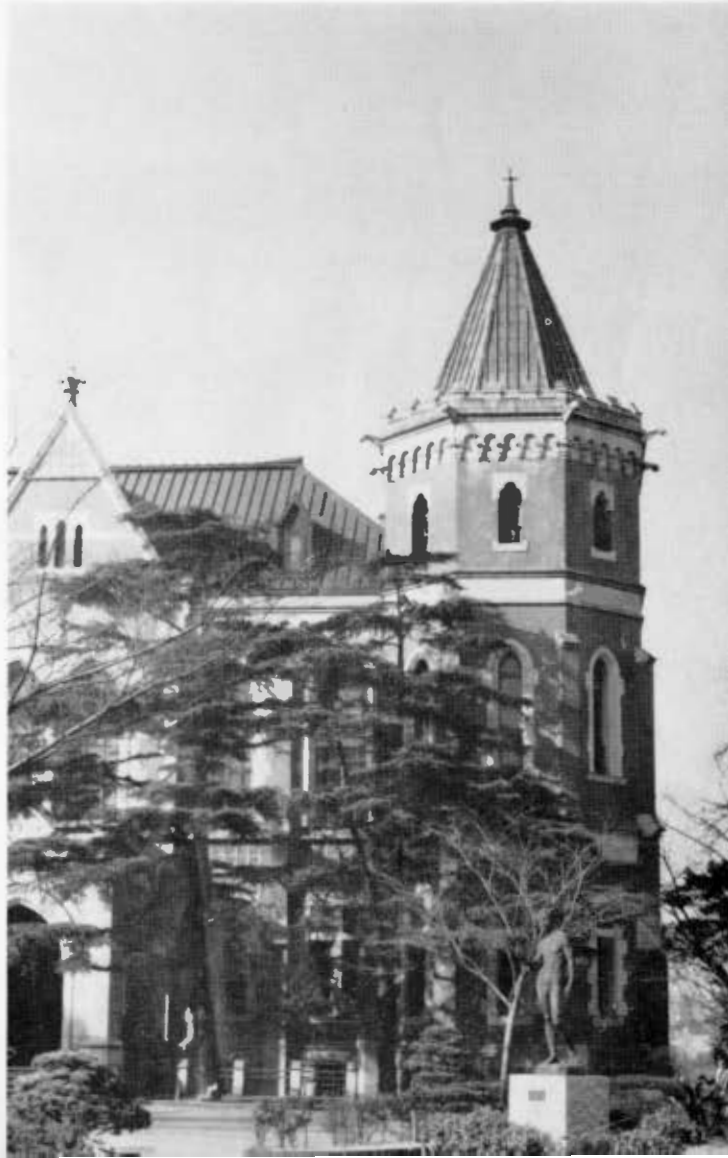


# 八角塔

慶應義塾図書館

昭和四十二年七月

1



# 八角塔 第一号

生きている図書館	.....	佐藤 朔	1
研究と情報	.. ..	藤川正信	2
インクナブラ	.....	太田臨一郎	8
文献情報サービス	.....	丸山 信	9
教育と図書館			
—図書館略史—	.....		..18
三田文学ライブラリー目録	.. ..		.12
慶應義塾研究・教育情報センター委員会報	.....		7

# 生きている図書館

佐藤 朔

慶應義塾における大学図書館には、三田の中央図書館、四谷の北里記念医学図書館、日吉の藤山記念図書館、小金井の工学図書館がある。それぞれ性格が異り、三田の図書館は、研究者と学生のための図書館であり、また一般に公開されている、わが国で極めて数少ない大学図書館の一である。日吉の図書館は、学生を対象とし、四谷と小金井の図書館は、専門図書館である。

三田の図書館は、明治45年に建設されたもので最も古く、蔵書数も50万冊を越えており、特殊の文庫やライブラリーの他に、貴重な図書、資料などを多数所蔵しておる。各地区における図書館も、特色のある蔵書構成のもとに、研究 教育の文献情報の提供をしている。

ところが、周知のこのように、近代の図書館は蔵書数の多いことを自負しているだけでは、その機能を果しているということができない。大学図書館者として、50万冊ぐらいの蔵書は 欧米の図書館に比べれば、物の数ではない。何10万冊、何100万冊であっても、それらが研究を志す者にとってつねに利用され易い状態におかれていなければ無意味である。そのために整理、分類が合理化され、調査、分析が精密であり、閲覧、貸出、複写などの利用が迅速に行われなければならない。この点、われわれはつねに留意し、人員不足を嘆きながらも、図書館の合理化、近代化を計って、除々にではあるが改善を施しているつもりである。利用者本位の理想的な大学図書館として誇るに足る姿になるまでには、まだ幾多の困難があり、それを打開するのに多大の努力を必要とするであろう。

図書館は 学問 教育の進歩発展とともに成長するものであり、また成長しなければならない。図書館の生命力は、館員の努力だけではなく、絶えず研究者と緊密な関係を保ち、その助言と協力をうることによって養われる。

「八角塔」の創刊にあたって、一言所感を述べて 大方の御理解と御支援を切に望む次第である。

# 研究・教育と情報管理

文学部 藤川正信

1. 最近、情報管理とか情報検索あるいは情報産業というコトバが随所に現れるようになり、Machlup という人は“米国における知識の生産と分配”という本の中で、知識産業という形で、情報産業の実態を捕えようとしています。

情報や知識に対して、どちらかという物的な捕え方をすることに対して、抵抗を感じる人も多いと思われませんが、その理由の一つは、情報というものの本質があいまいにしか理解されていないばかりでなく、情報の検索手法や利用技術が活用されていないという状況に発見されるのではないのでしょうか。

ただし、もっと重大な理由として挙げられるのは、学問の領域によって、情報という形で知識を求めることが、比較的自然的な場合と、著るしく不自然に感じられるという点であろうと言えそうです。自然科学や技術の知識が一般に累積性を持つと言われるのに対し、人文科学や社会科学では、そのような性質を見出し難いという考え方が、この両者の差異を通念として生むように思われます。

この小論においては、学問の領域の持つ特性を知識の構成方法とか、研究の進め方から概観し、他方において情報とその抽出、組合せ、利用の仕方などの技術を検討し、この両側面を研究や教育活動の立場から、どう考え、また大学という組織の中で、どのように組織化し、利用体制を整えればよいかを検討することにいたします。

## 2. 学問領域の特性と情報

情報を定義づける上で、立場によっていろいろな解釈が加えられています。生物学的には、体内にある変化を起させるようなもので神経系統またはそれに相当する伝達組織を通じて伝達される何かである、と言えましょう。工学の立場でも、ほぼ同様なことを機械のシステムに関して考えればよいと思います。したがって、単なる物理的な衝撃は、情報とは言えず、それが受容器官で受け取られた時に、はじめて情報と見なされると考えられます。こういう場合に問題となるのは、それによってどういう変化が生じたかということにあります。

それとは異なり、われわれが問題にする情報は、何かと何かとの関係を伝える何かであると言えます。諜報活動においても、研究活動においても、情報というからには、既存の状況とか条件に起った変化、特に相互関係に見られる変化を捕えたものに他なりません。知識の面から焦点を当てますと、これまでの自分の持っていた知識体系の中にある変化を起させるようなものと表現できます。

これらの解釈は、ごく常識的なものに過ぎず、それぞれの専門の立場から見れば、甚だ不十分で、かつ誤ったものかも知れません。しかし、広く情報の問題を扱うに当たっては、上述のような理解の仕方が一番無難であるように思われます。

また、何かというあいまいな表現が上述の文章の中に出てまいります。情報がものでないだけに、どうしてもこういう表現になってしまいます。ノバート・ウィーナーも「情報は情報であって、物質でも、エネルギーでもない」と述べております。この何かは、たしかに物質でも、エネル

ギーでもありませんが、物質やエネルギーとまったく無関係であるかという点、そうではなく、その何かは伝達されるためには、物質やエネルギーを必要とすると言えます。したがって、物質やエネルギーは伝達のための媒体であり、情報としての何かは内容を構成すると見られます。

次に、変化とか関係とかいう言葉で情報を規定しましたが、これは裏側に系とか組織の構成を想定してのことです。

関係という言葉も、いろいろに理解されていますが、関係もまた確かに実在しているけれども、物質でもエネルギーでもない、という特性を持っています。われわれが関係を問題にする場合は、実は次の二様のいずれか、あるいは両方を混同視していることが多いようです。

(1) 関係そのものと、われわれの関係に対する評価とは同じものではない。つまり、関係の評価とか解釈は、われわれの見地とか立場によって異なる。

(2) ある特別の条件の下では、ある関係を持つ事物から関係だけを切り離してしまうことがある。このことは、特定の事物の持つ具体的な特性を無視して、ある系とか単位のレベル上での相関的位置だけを問題にすることである。

この区別は、レフ・パヴロヴィッチ・テプロフの考えに基くものでありますが、この両者に人文・社会科学のアプローチと科学技術のアプローチが代表されるように考えられます。

(2)で示されているように、関係を事物から切り離すことができるということは、特定の事物を、同じ属性を有する事物と置き換えることが許される場合に限られます。したがって、もしもある特定の事物や現象に関する認識が、別の特定の事物や現象に対するそれと異なる場合は、関係の抽象化は不可能となります。科学技術においては、その哲学的側面を除外すれば、特定の事物の特定の時系列における存在様態を問題にしません。この分野においては、観察や実験がくり返して行われても、関係そのものには条件が同じであれば一回ごとに質的变化が起らないで、関係そのものに起る変化だけが問題となります。ここに、科学技術の知識の累積性が基いています。

(1)の場合は、一般に人文社会科学における関係の捕え方に近いと思われる。見地とか立場の相違によって関係の解釈が異なるから、フランス革命という社会的変化全般およびその中に見られる要素間の関係の捕え方が異なり、各種の説が生れることになるのではないのでしょうか。

もっとも文学や史学や教育学などを、科学と見るか否かについては、意見の差異があると思われる。学問と科学を同一と見なすかどうかによって、その差異が出てくると言えます。もしも、すべての学問領域が方法論的に科学という考えで統合されるべきであると想定するならば、関係の解釈は次のようにされるべきであります。

かくあるべき関係というものが、帰納的に追求されることが可能となるところに、関係そのものの像と人間の評価が無限に狭められてゆく可能性が発見される。この場合のかくあるべき関係は、自然的必然性により支えられるものであり、倫理的当為により裏づけられるべきものではない。

もしも、このように関係の捕え方を解するならば、人文・社会科学も自然科学も、法則へのアプローチは同一と見なされてよい形になります。しかし、現状では諸科学の間にやはり差異を認めざるを得ない状態にあり、差異を無くすことの良否も問題となります。そこで、いちおう諸科学の特性を手がかりとしながら、情報との結び付きを考えてみたいと思います。

#### (a) 人文科学

人文科学の定義づけは言うまでもなく大変な仕事ですが、ここでは常識的に、「人文科学は、自然的存在としてではなく、自ら思惟し、行動するものとしての人間の存在様式、行動形式およびその所産を対象とし、人間の特質そのものを究明することを意図する学問領域である」と想定してしまふことにします。

このように人文科学を解した場合は、物質的に想定しえない人間の特性や本質が問題となるの

であるから、対象の限定や規定などについては、研究者の考え方自体が答となり、それゆえに主観が重要な要求と見なされます。また、主観を通して捕えられた対象の在り方、関係などに関する真偽の検証もまた主観に基く論理の展開方式によって決定されると言えます。

このように考えてきますと、人文科学関係の情報としては、断片的な事実とかデータよりも、対象の規定の仕方とか、対象に対する考察の過程および方法の全体が重要視されることがわかります。したがって、一冊の書籍、一編の論文の通読が必要となり、それをしないと、思考の文脈が発見できないこととなります。

別の面から焦点を当てますと、他の科学領域においては、発見された事実がまとめられて累積されたり、データの関連性が研究対象となるのに較べて、累積性とか関連性は、対象に関する（理論的根拠としての）規定の仕方が同一、類似の関係にあるという歴史的事実の研究を除外すると、第一義的な位置を占めるものではないと考えられます。

人文科学における情報源や情報資料としては、上述の理由から、記録自体に大きな比重が置かれ、その中に含まれている断片的事実は比較的重視されないこととなります（前述のように、テキスト・クリティクその他歴史的研究の場合は除外します）。

次に、このような記録類の再記録が参考資料として必要になることは、容易に予想されます。人文科学とか社会科学で、書誌が重要視されることは、この理由に基くものであると思われる。

第三に、各種の記録の中で、学問的研究の成果のあとづけという立場から、学史、学説史が重視されます。

第四に、事実やデータよりも、理論構成に重きを置き、しかも批判に耐えうる主観の記述が主たる研究対象となるという見方に立てば、個人の全集や学派の研究成果の集大成が研究に不可欠の資料となります。

第五に、主観の内容表現には言語が用いられるので、それを個人に即して収録したり、あるいは特定の作品に現われた言語の使用法を調べるための資料が重視されます。

この他、各種各様の情報源が考えられますが、一言で表わしますと、人文科学の領域の情報は、個人のものの方を捕えうる、しかも論理的にまとまった内容を持つものでなければならぬという特性が見られます。

## (b) 社会科学

社会科学の中には、政治学、法律学、経済学、社会学、人文地理学などが含まれますが、個々の専門領域ではなく、社会科学全体を通観しますと、ある面では人文科学の分野に、他の面では自然科学の分野に重なったり、あるいはそれらと相互影響を持つと言えましょう。

別な見方をしますと、現象が個人的に解釈され、規定されるだけでなく、現象を通して事実を実証的に捕え、自然科学の方法を援用して実証性を求めることが多いということとなります。すなわち、現象解釈の点では主観的表現を要求され、他の面では、純粋科学の（関係そのものの把握における）理論的厳密性が要求されます。社会科学の法則には、一般にこのような二面性が認められると考えてさしつかえないでしょう。

この分野の研究でもう一つ重要な点は、適及的な観点が重視されることで、この点では、人文科学と共通性を持っています。理論的解明を行なうには、歴史的研究が重視されるという面で、最新の成果を重視する自然科学と異なります。結果として、過去の文献の比重が、自然科学における場合よりも重くなると言えましょう。

社会科学が自然科学と異なり、人文科学に近い点として、もう一つ、多くの学派の並立が挙げられます。その代表例はマルクス学派と非マルクス学派のそれに見られます。この両派に属する

社会科学研究活動の中で、さらにそれぞれの個別社会科学ごとに学派が並立しております。

それだけではなく、社会科学のある面では、自然科学と同様に、データとか最近開明された事実が重視されるということもあり、そういうデータや事実が研究上重大な役割を果たすことが考えられます。

このような特性に基づく情報要求は、一方では人文科学と同様な情報源の利用により、他方においては、次に述べる自然科学領域での情報源により満たされます。後者の一例としては、統計資料などのデータの集成記録が挙げられます。

### (c) 自然科学

自然科学は、自然が本来持っている法則性や構造を研究する領域であり、人間は観察者に他ならないと言えます。人間は対象を限定し、規定し、その範囲内における現象を質的に解析し、量的に測定します。科学的方法には、定量的で、かつ再現性があるという特質が見られます。そういう方法で処理されれば、個人的主観が入りこむ余地は少なくなります。しかし、対象が複雑で規定しがたい場合には、その程度により、作業仮説(working hypothesis)に主観が入ってまいります。

仮説の実証には、実験とか類推というアプローチが取られますが、どういう場合でも、自然法則を実証するのは自然そのものであり、人間の論証方法、たとえば神学における論証法などにより左右されるべきものではないと考えられています。

このような自然科学の特色は、情報要求が国境や個人を超えた世界的なものになり、事実の発見や確認に向けられるという性質に大きな影響を与えていると思われれます。同じ自然科学と言っても、物理学、生物科学、地球の科学などの分野により、情報要求も、それに応える情報源も異なりますが、最新の情報を基礎として、関連データを求めるという点では一致すると言えますよう。

大学における研究教育に即応する情報管理を行なうには、上述のような諸科学の特性をよく理解した上で実施されねばならないことは、言うまでもありません。そこで、次に情報管理とはどういうもので、それが大学の中でどのように組織の中に組み入れられ、活用されるかを概説することにします。

### 3. 情報管理

情報管理に類似した言葉として、情報処理、ドキュメンテーション、I R などの語句がありますが、ここでは情報管理を「情報の利用を目的とし、情報の生産、入手、加工、配布などのプロセスを、利用のために管理すること」と解しておきます。

情報管理は、事務の統一化や経営方針の確立のために実施されるのと同様に、研究とか教育の効率化や改善のためにも行なわれることが稀ではありません。情報管理の技術がこれまでに最も開発され、かつ実用化されているのは自然科学・技術の領域および組織としては企業体であると言えるでしょう。その最大の理由は、これらの領域や組織では、情報管理を必要と考えているからであります。必要のないところには、どんな技術も生かされないことは明らかです。

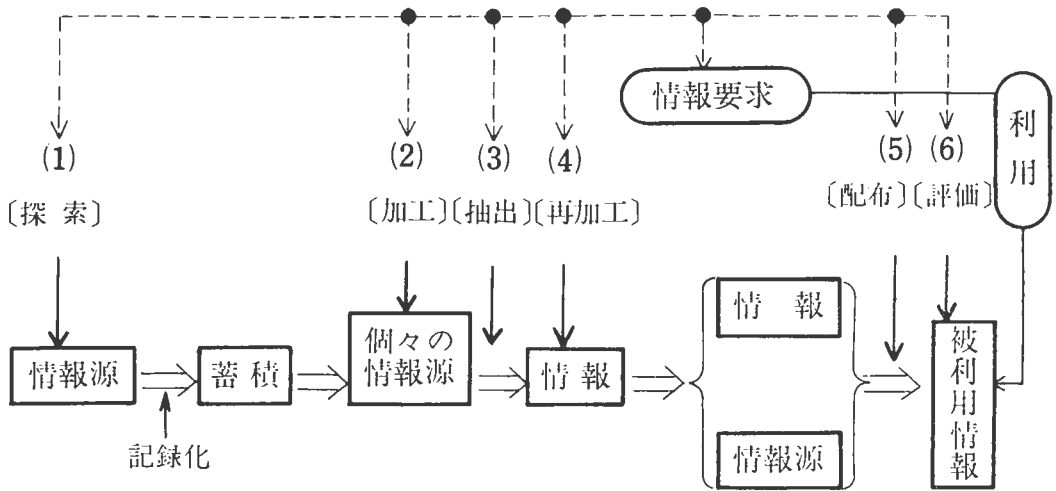
情報管理の内容を理解していただくために、少し説明を付け加えますと、次のように言えます。

情報管理を一つの組織的プロセスと見た場合、次図に示すように、主として六段階から成り立っています。

段階別にプロセスを分けると、それぞれのプロセスに次のような操作が含まれています。

#### (1) 情報源の探索と蓄積

情報源は市販の図書資料に限られず、官庁刊行物、会社の業務関係記録、団体・研究機関など



の刊行物に及びます。また、個人や個人の構成する組織も重要な情報源と見なされます。さらに、各種の特殊コレクションは、その方面の研究者にとって必要不可欠のものであります。

一つの組織で、こういうあらゆる情報源を手許に蓄積することは不可です。しかし、自分の手許には、自分が最も必要とするものを蓄積し、他の情報源に関しては、それに関する情報を蓄積すればよいと考えられます。蓄積された情報は、記録の形に定着します。記録化された情報は、やはり情報源として扱われます。

## (2) 情報源の加工

こうして蓄積された情報源は、そのままでは利用に不便なので、それに対して加工を施します。加工の段階では情報要求を反映するように考えると同時に、情報源をモノとしてまとめやすい形にするように心掛けます。方法としては、類概念を基礎とした分類的手法と、記憶と結びついた個別認識のための索引手法とがあり、検索に当ってはこの両者を併用することができます。

## (3) 情報抽出

情報の検索と考えると、さしつかえありません。ある情報要求があった場合、第一段階として、その要求に合致する情報源を求めます。これがいわゆるドキュメント・リトリバル (document retrieval) に相当します。第二段階というのは、求められた情報源の中から要求に合致する部分(情報)を抽出する操作であります。つまり、必要部分だけが入手できるように考えるわけです。

例えば、ある家計調査の結果を要求した場合、それを内部情報として持っている特定の統計書が第一段階として出てきます。次に、第二段階としてその統計書の中から、家計調査の結果を示す項目や数字だけを抽出することになります。

現在までの情報検索の手法としては、計数情報に限った場合にだけ、第二段階に及んでいますが、一般にいわゆる文献検索と称せられているものは、第一段階に止まっています。実は、この第一段階さへも、実施に当っては各種の問題を生じます。その中で最も大きい問題の一つとして、従来は情報源(文献)にインデックスを付け、同様な手法で要求にもインデックスを付け両者の間のマッチングだけを問題としていました。これは確定的手法であり、かつインデックスにより、情報源の特性全体を捕えることが困難なため、必要なものが求められなかったり、不必要なものが出て来ることが多かったと言えます。

これに対して、現在では確率的手法の応用が試みられ、電子計算機の利用によって、その手法の開発が試みられてきています。この手法が完成しますと、情報要求と情報源の数量的相関も考慮に入れた上で、要求に適合する情報源および情報の抽出が可能となります。



#### (4) 情報源・情報再加工

第(3)段階により、情報要求に適合する情報源や情報が抽出されたとしますと、さらに情報要求者の需要生態に応じて再加工を加えます。たとえば、心理学の専攻者が、計量心理学の雑誌文献を国語別に毎月リストしてほしいという要求を示せば、それに従って該当論文を抽出して、言われたようなリストの形に変換します。

あるいは、得られた情報を求められた表形式に直すということも考えられます。

#### (5) 配 布

情報要求に適合する情報源や情報に加工したものを、予め捕えた、または予測した需要に応じて適切なフォームにして配布することも重要です。SDI (Selective Dissemination of Information) というのは、研究者ごとに情報要求を予め捕えて、予め適合情報源を捕えて利用者に供給する方法で、IBMの研究所で最初試みられ、それがわが国でも広く利用されるようになっていきます。

#### (6) 結果の評価

(1)~(5)の段階を経て情報源および情報が処理・加工されて利用者に提供されますが、その結果を絶えず評価して各段階の改善を計ることは極めて重要であり、評価から各段階へのフィードバックが正しく行なわれ、はじめてすぐれた情報管理が行なわれると言えましょう。

以上、情報管理のプロセスの大略を述べましたが、これに経営的側面からの検討を加えることで、システムの構成が可能となります。

どちらかという、研究面に重点を置いた解説に偏りましたが、学生の要求は、将来の彼らの研究活動を考えても、また大学における教育の充実から見ても、同様に重要性を持つものであり、情報管理のシステムにおいて、学生の情報源および情報に対する要求を充分反映させなければなりません。

情報管理は、利用者の側から見ると、便利な道具を提供されたのと同じように見られます。研究教育の両活動において、それぞれの専門領域に応じた便利な方法が具体的に実施されるようになることが、塾として望ましい方向であり、そのためには専門の研究教育活動に携わっておられる方々の協力が必要であることを、最後に申し添えさせていただきます。

### 慶應義塾研究・教育情報センター委員会報

新図書館計画委員会において、過去5年余に亘って研究室、研究所、図書館の現状について種々な調査を行ない、それぞれの将来あるべき姿に検討を加えて来た。これを生かして 徐々に実行に移る段階に入るべきであると考え、約1年間構想を練った結果、慶應義塾研究 教育情報センター委員会として新たに発足する事となった。委員会より実行委員会に出された要望は、図書文献情報を取扱う機関を種々なサービス面において一元的な理念のもとに統合調整すると云う事で、実行委員会では利用分科会、管理分科会を作り、日録基準の作成に着手し、又利用者の希望を知るために、利用に関するアンケートを行なった。このアンケートは集計分析後公表する予定である。

# イ ン ク ナ ブ ラ

グーテンベルク (Johann Henne Gutenberg) が15世紀の中葉に活字印刷術を発明し、1457—58年ごろ、36行のラテン語聖書を刊行してから、15世紀中に出版された活字印刷書をインクナブラという。ラテン語で「おむつ」の意、幼年期の意味にも使われる。1688年アムステルダムのバウヘム (Beugelm) の著 "Incunabula Typographiae" から、その名が生じて、現代でも世界を通じて書誌学上の用語として行なわれている。「八角塔」も誕生したばかりであるから、まず「おむつ」本を紹介するしだいである。

刊行部数の少なかった時代とはいえ、40年間には相当の部数が印刷されたと思うが、500年前のことゆえ、現存部数は極わめて少ない。グーテンベルクの刊行書などになると、何処の図書館には何があるとその所在が判っているほどで、西洋ではインクナブラがなければ大図書館の仲間入りができない。

さて、本館に架蔵されているのは

EIVSTINI HISTORICI CLARIS/SIMI IN TROGI POMPEII HI/STORIAS EXORDIVM. と題し、巻末の Colophon (刊記) によると1476年6月1日にファルダルフアー (Valdarfer) という印刷者が刊行したとある。彼はミラノにおいて印刷所を経営していた。

著者はユスティヌス (Marcus Junianus Justinus) といい、3世紀のころのローマの史家で、その著は中世紀に広く読まれた。本書はユスティヌスが、1世紀ごろのギリシアの史家トログス (Pompeius Trogus) の著書を抜萃したものである。トログスは、古代ギリシアから当時の地中海世界にいたるまでの歴史 "Historiae Philippicae" 44巻の著者として聞かされている。

本書はタテ 27.5, ヨコ 19センチの小型フォリオ判、羊皮紙に見まごうような厚紙108葉、1頁34行、各章の頭字は赤又は青の大字で印刷し、第1頁の起筆は欄外の天地と左方一杯に金、赤、青で大きく装飾文字を描き、下の中央に青地の楕の中に金色のライオンが立上っている、紋章学でいうライオン・ラムバントの紋章が描かれているのは最初の所蔵者のそれであろうか。

先日、ニューヨーク・パブリック・ライブラリーの稀覯書部スペンサー・コレクションのクーブ (Karl Kup) さんという司書が来塾して、図書館科の学生に講演したときに、中世紀の手写本は僧院で写字僧が頭字の部分を空けておくと、旅絵師が巡って来て装飾したものだと話されたが、印刷本になってもこの風が遺っていたのかもしれない。

装幀はベラム (こ牛皮)、背に2箇所茶色の皮を貼り IUSTIN/HISTOR と上欄に、MEDIOS/1476 と下欄に金字で押してある。この装幀は16世紀のものと推定されるが、破損した箇所から下貼りに使った木版の大形の楽譜が見える。

なお、本館にはグーテンベルクの印刷になる1460年版のカトリコン (Catholicon) が一葉だけ架蔵されている。このカトリコンは現在世界中で70部余しか所在が判明していない稀覯書であるが、30年ほど前、欧州のある僧院で発見された破本をニューヨークの書店 The Brick Row Book Shop が解題を付けて分譲したものの一である。この本文はジェノアにいたドミカ派の律僧バルブス (Joannes Balbus) が1286年にまとめたラテン語の文法と辞典である。大形のフォリオ判で、厚い木炭紙に刷られた漆を入れたかと思うような本文の黒と頭字の赤は、ただ古いというばかりでなく、精妙な印刷に驚かされる。

# 文献情報サービス

## A その現状

人文科学、社会科学系列の大学でも学術研究促進のため文献情報活動が要求されるようになってきているが、その活動を行なうための人員や経費が十分あれば、日本科学技術情報センターのような活動を行なうこともできるのであるが、スタッフや経費に制約されて思うような情報活動が行ない得ないのが、わが国の最高学府である大学の現状なのではなからうか。

本塾図書館でも、戦後27年9月より全国のどの大学よりいち早くレファレンス・ルームを図書館内に設置して学術情報の組織化の第一歩を踏み出して、現在のようなレファレンス・ルームに発展してきているのであるが、前述の全国の大学図書館の例にもれず、予算、人員、スペースのリミット等あって情報活動に必要な諸要素を十分に整備することができない状態である。

この問題は日本の学術研究促進のために誠に残念なことであり、日本学会会議でも指摘しているように、全国ならびに全学問分野にわたる収書計画、整理計画、学術情報組織・要員、予算などの面での検討すべき事柄として山積している。本塾図書館でも今後の努力目標として重要な一つにならう。

## B 新着レファレンス・ブックの紹介

最近のように文献が多量に出版されると、その中から自分の必要とする文献を早く見つけ出すことは至難となり、また諸科学が総合化されてはじめて、一つの研究成果が達せられるようになってきたので、どうしてもその隣接科学の文献にも眼を通す必要を生じてきた。この場合、羅針盤なり風向計となってくれるものが必要である。これらの文献の混乱状態から交通整理を目的としている書誌は、そのような要求に応える最も適当な参考書である。また書誌はいろいろな学術情報を収録しているので、その利用によって必要とする情報源への手がかりを得ることができる。

さて、最近レファレンス・ルームで受入れた書誌のいくつかを紹介したい。

Besterman, Theodore. A world bibliography of bibliographies and bibliographical catalogues, calendars, abstracts, digest, indexes, and the like. 4th ed., rev. and greatly enl. throughout. Lausanne, Societas bibliographica, [c 1939, 1965-66]. Vol. 1 A-D, Vol. 2: E-K, Vol. 3 L-P, Vol. 4 Q-Z, Vol. 5 Index. (1)

これは、初版を1939年から40年にかけて2冊として出版され、つづいて再版、3版と増改訂し、今般の4版は1965年3月より刊行、60年6月完結せるもの。内容は名称の如く、各種の書誌、抄録誌、索引誌などを収録編集したもので、“書誌の書誌”として世界の書誌の王座として、質量共に優れている。

The British national bibliography annual volume 1965. London, Council of the British National Bibliography, British Museum, 1966. (2)

全国的規模で資料を収録している書誌を全国書誌とよんでいる。イギリスには全国書誌として、(2) 略称 B. N. B. がある。これは著作権取得のために、大英博物館に納本された資料を基礎にして、1950年1月から刊行されはじめられた週刊の全国書誌を1年毎に年間の出版物を収録累積刊行している。本文は、二部に分かれ、Deweyの十進分類法によって文献を主題別に配列している

“Subject section”と、著者、書名、主題をアルファベット順に配列している“Alphabetical section”とから成っている。このアルファベット順索引によって資料を探索してみるとたとえば、アフリカに関する資料は、Africa 916, Africa Agriculture 630, Africa: Animals 591 96, Africa: Anthropology 572.96 等とその主題番号を指示するので、その数字から自分の探したい主題文献へアプローチできるのである。

Dissertation Abstracts: abstracts of dissertations and monographs in microform, Michigan, University Microfilms, Inc., 1966. Library has:-Jan., 1966 (Vol. XXVI, No. 7) Mar., 1966 (Vol. XXVI, No. 9) Apr., 1966 (Vol. XXVI, No. 10) May, 1966 (Vol. XXVI, No. 11) Jun., 1966 (Vol. XXVI, No. 12) (3)

これは、特殊書誌として取扱われるもので、著者、主題内容などの観点をはなれて、刊行形式がマイクロ・フィルムによる複製資料、あるいは限定本、翻訳書、学位論文などを内容とする。このアメリカのユニバーシティー・マイクロフィルム社はアメリカ国内大学院博士課程の学位論文を統一的に収集し、複製販布している。現在、約130の大学と協力組織をもっている。従ってここにリストされた学位論文がマイクロ・フィルムの形で入手することができる。1938年から1951年までの間は、“Microfilm abstracts”とよばれていたもので、内容は、学術諸科学の学位論文を主題標目のアルファベット順に配列し、1カ月に1回刊行する。さらに、世界各国で、このような学位論文を特殊書誌として刊行するものに、たとえば、イギリスの“Index to theses accepted for higher degrees in the universities of Great Britain and Ireland”, ドイツの“Jahresverzeichnis der deutschen Hochschulschriften”, フランスの“Catalogue des thèses et écrits académiques”などがある。漸次整備してゆくつもりである。

Daniells, Lorna M. (comp.) Studies in enterprise, a selected bibliography of American and Canadian company histories and biographies of businessmen. Bost., Baker Library, Harvard Univ. Graduate School of Business Administration, 1957 (4)

これは、最近社史に対する関心が深まったためハーヴァート大学の Baker Library がこれら研究者や歴史家のために編纂したもの。アメリカとカナダの有望な会社で刊行した社史より価値のあるものを選んでい。本文は、農業、漁業、水産、鉱業、建設、食品、繊維、パルプ、紙、化学、石油石炭、ゴム、鉄鋼、機械、電機、その他製造業、商業、金融、保険、運輸、放送、通信、サービスなど全産業界を網羅し、その中を会社名のアルファベット順に配列する。会社名あるいは社史名がその会社の事業内容を十分あらわしえない場合は、書名のあとに簡単な説明を加えている。巻末に三部の索引—Subject, Author および Periodicals and Serial Publications がつけられている。

Miller, Elizabeth W (comp.) The Negro in America, a bibliography. Comp. by E. W Miller for the American Academy of Arts and Sciences. With a foreword by Thomas F Pettigrew Camb., Mass., Harvard Univ. Press, 1966. (5)

前述の(4)と共に、本書はある主題の観点から文献資料を収録している書誌で、主題書誌 (Subject bibliographies) あるいは主題文献案内 (Bibliographic guide) とよばれるものである。アメリカの人種問題黒人問題を民族、人種、経済問題、労働、人口、政治、教育、文学、宗教などあらゆる面から理解するのに手助けとなるよう編集されている。1954年以降発表された3,500点以上の単行書、論文、パンフレットなどが収録され、その中あるものは要約が簡潔につけられている。黒人問題に関する絶好の書誌である。(M. M.)

資料紹介—(1)—

Historical Abstracts, 1775-1945 a quarterly of abstracts of historical articles appearing currently in periodicals the world over. Ed. by Erich H. Boehm. March, 1955- Vienna. quarterly.

所蔵 Vol. 1 (1955)-

請求記号 N 46-2 (但しレファレンスルーム備付)

Historical Abstracts は、その副題で明らかなように、逐次刊行物（年刊を含む）に掲載された論文の抄録誌である。取載範囲は全世界の政治・経済・社会・文化問題に渡っており、各論文が扱っている年代は1775—1945の期間に限られている。

本書の内容及び分類は次のようである。

- 抄録者名一覧
- 利用の仕方
- キュー (cue) コード一覧
- 略語表
- 本文及び書誌情報

ここで本文の記入法を紹介すると一論題は、(a)抄録番号、(b)分類及び地域（これはキューコードを参照）、(c)年代、(d)著者名（所属大学・機関名）、(e)論題名〔原論題の英訳名〕、(f)所載雑誌名（発行国名）、(g)発行年、(h)巻（号）、(i)頁、(j)抄録、(k)対照事項、(l)抄録者名の順である。次にこのHistorical Abstractsの索引について紹介しよう。5年毎の索引誌が刊行されて完全に累積され、コンパクトで検索も容易な方法が考じられている。1963、1965にそれぞれ刊行され、後者は電子計算機の導入によって編されたものであるが、一般の利用者にとってはかなり複雑に思われるかも知れない。しかし主題別索引、著者別索引、人名索引（Biographical Index：論文中に解説されている人物を検索することができる）が一冊体となっている点は、人文・社会科学系の抄録誌の索引として極めて注目すべき参考資料である。 (E. O.)

慶應義塾図書館蔵 和漢書善本解題

本文	171頁	図版	16頁
第1篇	古写本	116種	
第2篇	古刊本	152種	
書名索引, 筆跡者索引, 旧蔵者索引			
500円 (但, 塾外者 800円) 送料 90円			

# 三田文学ライブラリー目録

(昭和42年1月31日現在)

三田文学ライブラリーが久保田万太郎氏の著作権に基づく資金の援助を得て、発足したのは昨年の8月で、著書・遺品・原稿類の蒐集に着手しはじめたのは9月であった。以来、5カ月の間に蒐め得たもののうち、著作・翻訳・編輯本のみに限って目録をつくった。その他のものは別の機会に譲る。

配列は第一期蒐集文人のアルファベット順で、その中は発行年月順である。

\* 印は寄贈をうけたもの。

蒐集文人中、まだ一冊も収蔵し得ない人に、加藤道夫、南川潤、吉川静雄の諸氏がいる。

著作本のごとき蒐集しやすいものでも中々、古本市場に姿を現わさないものがある。大方の御援助を期待したい。

## 馬場孤蝶

- 連翹 久友社 明38. 5
- 春駒 佐久良書房 明39. 3
- モオパッサン傑作集 如山堂書店 大3. 2
- 近代文芸の解剖 石川文栄堂 大3. 9
- 社会的近代文芸(生活と芸術叢書1) 東雲堂 大4. 12
- 孤蝶随筆 新报社 大13. 10
- 紫煙 大阪屋書店 大14. 6
- 野客漫言 書物展望社 昭8. 9
- 明治文壇回顧 協和書院 昭11. 7
- \*明治の東京 中央公論社 昭17 5
- 明治文壇の人々 三田文学出版部 昭17 11

## 茅野蕭々

- 戯曲ダマスクスへ(ストリントベルク全集) 岩波書店 大13. 3
- ファウスト物語 岩波書店 大15. 1
- 独逸浪漫主義 三省堂 昭11. 9
- 朝の果実 茅野雅子共著 岩波書店 昭13. 11

## 原 民喜

- 焰 白水社 昭10. 3
- 原民喜詩集 細川書店 昭26. 7

## 樋口勝彦

- \*ローマ風俗考 食事・朗読 慶応出版社 昭24.3

## 堀口大学

- 昨日の花 靱山書店 大7 4
- 箴言集 沙上の足跡 グルモン著 東京堂 大11 4
- 新しき小径 書肆アルス 大11 4

レキスとイレエン モオラン著 第一書房 大14. 7

- 砂の枕 第一書房 大15. 2
- コクトオ詩抄 第一書房 昭4. 3
- 訳詩集 青白赤 第一書房 昭5. 9
- ヴェル レエヌ研究 第一書房 昭8. 3
- シモオヌ グウルモン著 裳鳥会 昭9. 6
- 馬來乙女の歌へる ゴル著 驪人荘 昭12. 2
- ソヴェト紀行修正 ジイド著 第一書房 昭12.10
- 果樹園 リルケ著 青磁社 昭17 12
- 毛蟲の舞踏会 青磁社 昭18. 2
- フランスの天才達 続共 フランス著 昭18. 8, 昭19. 2

- 戦ふ操縦士 テクジュペリ著 河出書房 昭20.12
- 怪顔 ケツセル著 八雲書店 昭21. 10
- 架空会見記 ジイド著 鎌倉文庫 昭21. 11
- 海軟風 訳詩集 新潮社 昭29. 2
- 夕の虹 昭森社 昭33. 5
- ヴェルレーヌ詩集 白鳳社 昭41. 1

## 岩田豊雄〔獅子文六〕

- 脚のある巴里風景 白水社 昭6. 7
- 舶来雑貨店 白水社 昭14. 5〔3版〕
- 近代劇以後 河出書房 昭15. 12
- 劇場と書齋 モダン日本社 昭17 6
- 海軍 朝日新聞社 昭18. 2
- フランスの芝居(生活選書5) 生活社 昭18. 2
- 雑感一劇について 道統社 昭18. 4
- 新しい芝居(悲劇喜劇選書4) 早川書房 昭23.12

観覧席にて(読売新書)読売新聞社 昭29. 12

新劇と私 新潮社 昭31. 12

## 泉 鏡花

湯島詣 春陽堂 明34. 6〔2版〕

黒百合 春陽堂 明35. 3

田毎かがみ 春陽堂 明36. 1

風流線 春陽堂 明37. 12

伊勢の巻 春陽堂 明38. 10

\*無憂樹 有倫堂 明39. 6

\*愛火 春陽堂 明39. 12

通夜物語 春陽堂 明40. 12〔5版〕

草迷宮 春陽堂 明41. 1

\*沈鐘 登張竹風共訳 春陽堂 明41. 9

\*柳宮 春陽堂 明42. 4

三味線堀 柳山書店 明44. 1

俳山水 聚精堂 明44. 9

\*銀鈴集 隆文館 明44. 10

国貞画く 春陽堂 明45. 4

南地心中 文芸書院 大1. 12

\*桜草 文芸書院 大2. 3

遊行車 尚栄堂 大2. 6

乗合船 春陽堂 大2. 10

参宮日記 春陽堂 大3. 1

日本橋 千章館 大3. 9

誓之巻 大盛堂 大3. 12

百花爛漫 文芸社 大4. 4

\*菖蒲貝(現代代表作叢書8)植竹書院 大4. 5

鏡花選集 春陽堂 大4. 9〔2版〕

遊里集 春陽堂 大4. 10

星の歌舞伎 平和出版社 大5. 10

愛染集 春陽堂 大5. 10

幻の絵馬(俠艶情話集1)春陽堂 大6. 1

\*鴛鴦帳 止善堂 大7. 6

愛草集 春陽堂 大7. 7

芍薬の歌 春陽堂 大8. 3

\*雨談集 春陽堂 大8. 10

銀燭集 春陽堂 大9. 10

\*絵木辰巳巷談 春陽堂 大9. 11

\*蜻蛉集 国文堂 大10. 2

相合傘 銀鈴社 大10. 5

櫛笥集 春陽堂 大10. 8

\*新柳集 春陽堂 大11. 1

\*竜蜂集 春陽堂 大12. 3

七宝の柱(感想小品叢書4)新潮社 大13. 3

りんどうとなでしこ プラトン社 大13. 7

愛府 新潮社 大13. 11

\*泉鏡花集 春陽堂 昭4. 2

\*昭和新集 改造社 昭4. 4

\*斧琴菊 昭和書房 昭9. 3

薄紅梅 中央公論社 昭14. 10

鏡花全集 全28巻 岩波書店 昭15. 3~17. 11

新泉奇談 角川書店 昭30. 12

## 北村小松

陰知己漫語 時潮社 昭8. 10

街頭連絡 医者と坊主(現代ユーモア小説全集4)  
アトリエ社 昭10. 8

タバコ ロード コールドウエル著 第一書房  
昭12. 7

北村小松集(現代ユーモア文学全集13)駿河台書  
房 昭28. 11

男は沢山ゐるけれど 東方社 昭30. 9

オーナードライブ 文芸春秋新社 昭36. 12

## 小泉信三

\*経済学説と社会思想 国文堂 大9. 9

\*社会組織の経済理論の批評 下出書店 大10. 11

\*改訂 社会問題研究 岩波書店 大14. 5

\*近世社会思想史大要 岩波書店 大15. 11

\*労働者綱領 ラツサアル著(岩波文庫)岩波書店  
昭3. 10

\*マルクシズムとボルシェビズム 千倉書房 昭4.  
6

\*リカドオ研究 鉄塔書院 昭4. 9

\*経済及租税原論 リカドオ著 岩波書店 昭5. 9

\*アダム スミス伝(偉人伝全集2)改造社 昭7  
11

\*師友 書籍 岩波書店 昭8. 6

\*アダム スミス マルサス リカドオ 正統派  
経済学研究 岩波書店 昭8. 6

\*学窓雜記 岩波書店 昭11. 7

\*アメリカ紀行 岩波書店 昭13. 5

\*学府と学風 慶応出版社 昭14. 10

\*大学生生活 岩波書店 昭14. 12

\*学生に与ふ 三田文学出版部 昭16. 12

\*経済学の理論 ジェボンズ著 宇尼琢磨 永田清  
共訳 日本評論社 昭19. 7

\*増訂 マルクス死後五十年 好学社 昭21. 9

\*社会思想史研究 和木書店 昭22. 4

\*福沢論吉の人と書翰 慶友社 昭23. 5

\*改訂 価値論と社会主義 小石川書房 昭23. 5

\*文学と経済学 類草書房 昭23. 6

- \*読書雑記 文芸春秋新社 昭23. 10
- \*近代経済思潮概観 好学社 昭24. 10
- \*水上瀧太郎作品集「旅情」好学社 昭24
- \*今の日本 慶友社 昭25. 8
- \*朝の思想 雲井書店 昭27 9〔2版〕
- \*近代経済思想史 慶応通信 昭27 11
- \*思ふこと憶ひ出すこと 新潮社 昭32. 1
- \*いかに生くべきか(小泉信三選集2)文芸春秋新社 昭32. 8
- \*いかに読むべきか(小泉信三選集3)文芸春秋新社 昭32. 9
- \*人間社会の自由(小泉信三選集1)昭32. 10

小泉 鉄

蕃郷風物記 建設社 昭7 5

久保田万太郎

- 浅草 靱山書店 明45. 2
- 雪 靱山書店 大2. 1
- 駒形より 平和出版社 大5. 10
- 青鷺 国文堂 大10. 1
- 雨空(現代脚本叢書6)新潮社 大10. 11
- 水のおもて(金星堂名作叢書20)金星堂 大11.6
- 春泥 春陽堂 昭4. 1
- 近世諸国咄・他二(現代語訳西鶴全集6)春秋社 昭6. 9
- 月あかり・町中 新小説社 昭9. 9
- 夜光蟲 双雅房 昭10. 7
- 泉鏡花読本(読本現代日本文学7)三笠書房 昭11. 9
- さんうてい夜話 靱山書店 昭12. 5
- \*久保田万太郎全集 全18巻 好学社 昭22. 1~24. 12
- 互選句集 久米三汀共著 文芸春秋新社 昭21.9
- \*春燈抄 木曜書房 昭22. 12
- 樹陰 中央公論社 昭26. 9
- 残菊帖 好学社 昭26. 11
- 雪の音 好学社 昭30. 12
- 三の西 中央公論社 昭32. 2〔5版〕
- 火事息子 文芸春秋新社 昭32. 9
- \*心残りの記 筑摩書房 昭33. 7
- よしやわざくれ 青蛙房 昭35. 11
- むかしの仲間 中央公論社 昭36. 5

蔵原伸二郎

- 風物記 ぐろりあ・そさえて 昭15. 9
- 詩集 戦闘機 鮎書房 昭18. 7
- 天日の子ら(新詩叢書16)湯川弘文社 昭19. 3

東洋の詩魂(作家論シリーズ3)東京ライフ社 昭31. 2

黒岩涙香

- 天人論 朝報社 明36. 5
- 精力主義 隆文館 明37 5
- 暗黒星 朝報社 明37 9
- 巖窟王 全4冊 扶桑堂 明38~39
- 椿説花あやめ 扶桑堂 明41. 1
- 破天荒 扶桑堂 明43. 2
- 小野小町論 朝報社 大2. 7

前田越嶺

- 倫理叢書 リギョル著 昌平館 明36. 5
- 少年史談 世界武將伝 博文館 明42. 6

正木不如丘

- 湖心の恋 至玄社 昭2. 5
- 正木不如丘集(現代大衆文学全集4)平凡社 昭2. 7
- 桜さく国 春陽堂 昭3. 1
- 高原、鈞 民生書院 昭21. 5
- \*花の開落 朝日新聞社 昭32. 3

増田廉吉

\*鎖国の窓 朝日新聞社 昭18. 4

松本 泰

- \*天鷲絨 靱山書店 大2. 3
- \*情火 コーソル著 聚英閣 大10. 10
- \*或る年の記念 奎運堂 大13. 10
- \*松本泰集(現代大衆文学全集15)平凡社 昭3. 7
- \*炉辺と樹陰 岡倉書房 昭10. 12
- \*倫敦の薔薇 青木書店 昭15. 7

水上瀧太郎

- \*処女作 靱山書店 大1. 11
- 旅情 春陽堂 大8. 11
- 亜米利加記念帖 国文堂 大9. 7
- 日曜 国文堂 大9. 11
- 葡萄酒 東光閣書店 大11. 10
- 明窓集 大阪毎日・東京日々新聞社 大12. 6
- 果樹 改造社 昭4. 5
- 第四貝殻追放 大岡山書店 昭4. 7
- 月光集 大岡山書店 昭4. 11
- 親馬鹿の記 改造社 昭9. 5
- 倫敦の宿 中央公論社 昭10. 5
- 遺産 中央公論社 昭11. 12
- \*水上瀧太郎全集 全 巻 岩波書店 昭15. 11~16. 11



水木京太

\*戯曲集 福沢諭吉 風俗社 昭11. 9

靱山梓月

連句入門 俳書堂 大15. 10

鎌倉日記 伊香保日記 私家版 昭3. 6

森 鷗外

審美綱領 大村西崖共著 2冊 春陽堂 明32.6

審美新説 春陽堂 明33.2

審美極致論 春陽堂 明35. 2

歌日記 春陽堂 明40. 9

一幕物 易風社 明42. 6

涸滴 新潮社 明43. 10

烟塵 春陽堂 明44. 2

我一幕物 靱山書店 大1. 8

青年 靱山書店 大2. 2

意地 靱山書店 大2. 6

謎 現代社 大3. 5

沙羅の木 阿蘭陀書房 大4. 9

ギョツツ 三田文学会 大5. 5

高瀬舟 春陽堂 大7. 2

山房札記 春陽堂 大8.12

森田思軒

思軒全集 卷1 金尼文淵堂 明40. 7〔2版〕

永井荷風

女優ナナ（十九世紀文学叢書1）新声社 明36.9

あめりか物語 博文館 明41. 8

すみだ川 靱山書店 明44. 3

散柳窓夕榮 靱山書店 大3. 3

日和下駄 靱山書店 大4. 11

紅茶の後 縮刷版 靱山書店 大5. 4

江戸芸術論 春陽堂 大9. 3

\*三柏葉樹頭夜嵐（戯曲選集12）春陽堂 大10. 7

麻布襖記 春陽堂 大13. 9

下谷叢話 春陽堂 大15. 3

荷風文楽 春陽堂 大15. 4

つゆのあとさき 中央公論社 昭6. 11

荷風隨筆 中央公論社 昭8. 4

冬の蠅 偏奇館 昭10. 4

机辺の記 青燈社 昭11. 4

\*おもかげ 岩波書店 昭13. 7

問はずかたり 扶桑書房 昭21. 7

ひかげの花 中央公論社 昭21. 9

罹災日録 扶桑書房 昭22. 1

夏姿 扶桑書房 昭22. 3

\*敷章 扶桑書房 昭22. 5

浮沈 中央公論社 昭22. 5

\*荷風日歴 上巻 扶桑書房 昭22. 9

\*来訪者 筑摩書房 昭22. 12

荷風句集 細川書店 昭23. 2

雑草園 中央公論社 昭24. 5

\*葛飾土産 中央公論社 昭25. 2

\*裸体 中央公論社 昭29. 2

\*荷風思出草 毎日新聞社 昭30. 7

葛飾こよみ 毎日新聞社 昭31. 8

吾妻橋 中央公論社 昭32. 11

南部修太郎

返らぬ春 玄文社 大12. 4

白蘭花外六篇（令女文学全集5）平凡社 昭5. 2

成瀬無極

偶然問答 大鏡閣 大14. 12

文芸百話 第一書房 昭9. 2

人間凝視 政経書院 昭9. 6

人生戯場 政経書院 昭9. 8

近代独逸文学思潮 表現社 昭9. 9

無極隨筆 白水社 昭9. 11

南船北馬 白水社 昭13. 5

木の実を拾ふ 白水社 昭15. 11

日本俚諺選 Japanese Volksmund. 神戸大  
阪プレス 昭17

無極創作選集 駢々堂 昭18. 6

面影草 北隆館 昭22. 4

無極集 法律文化社 昭34. 11

西脇順三郎

第三の神話 創元社 昭31. 11

\*Ambarvalia 複製版 恒文社 昭41. 5

野口米次郎

英米の十三年 春陽堂 明38. 5

The Summer Cloud 夏雲 春陽堂 明38. 12

我が手を見よ アルス 大12. 5

ヨネ・ノグチ代表詩 新詩壇社 大13. 5

芭蕉論（ブックレット1）第一書房 大14. 11

光悦と抱一（ブックレット2）第一書房 大14. 11

松の木日本（ブックレット3）第一書房 大14. 11

能楽鑑賞（ブックレット4）第一書房 大14. 12

米国文学論（ブックレット5）第一書房 大14. 12

光琳と乾山（ブックレット6）第一書房 大14. 12

春信と清長（ブックレット8）第一書房 大15. 1

写楽（ブックレット9）第一書房 大15. 1

- 蕪村俳句選評(ブックレット10) 第一書房 大15.2  
 芭蕉俳句選評(ブックレット11) 第一書房 大15.2  
 ポオ評伝(ブックレット12) 第一書房 大15.3  
 神秘の日本(ブックレット15) 第一書房 大15.4  
 小泉八雲(ブックレット13) 第一書房 大15.5  
 蕉門俳人論(ブックレット18) 第一書房 大10.10  
 愛蘭情調(ブックレット28) 第一書房 大15.10  
 放たれた西行 春秋社 昭3.6〔2版〕  
 人生詩集 第一書房 昭4.3  
 ブラウニング詩集 第一書房 昭5.3  
 簡素な生活(ブックレット24普及版) 第一書房  
 昭5.8  
 印度は語る 第一書房 昭11.5  
 起てよ印度 小学館 昭17.6  
 詩歌殿 春陽堂文庫 昭18.4  
 芸術殿 春陽堂文庫 昭18.9〔2版〕  
 文芸殿 春陽堂文庫 昭18.9  
 想思殿 春陽堂文庫 昭18.12  
 八紘頌一百篇 富山房 昭19.6  
 表象抒情詩全集 地平社 昭22.7  
 美の饗宴 早川書房 昭23.11
- 大場白水郎  
 白水郎句集 俳書堂 昭3.8
- 岡鬼太郎  
 \*義太夫秘訣 服部書店 明36.3  
 \*江戸紫 鈴木書店 明45.5  
 \*合三味線 辰文館 明45.6  
 \*紅筆草紙 鈴木書店 大2.1  
 \*あつま唄 南人社 大7.4〔2版〕  
 \*春の雪 双雅房 昭13.4  
 \*歌舞伎眼鏡 新大衆社 昭18.3  
 歌舞伎と文楽 三田文学出版部 昭18.5  
 \*岡鬼太郎集(昭和演劇新書) 建設社 昭18.5
- 折口信夫  
 \*古代研究 民俗学篇第1 大岡山書店 昭4.4  
 \*古代研究 国文学篇 大岡山書店 昭4.5〔2版〕  
 \*古代研究 民俗学篇第2 大岡山書店 昭5.7  
 〔2版〕  
 日本芸能史六講 三教書院 昭19.3  
 山の端 折口春洋共著 八雲書店 昭21.6  
 古代感愛集 青磁社 昭22.3  
 日本文学発生の序説 斎藤書店 昭22.10  
 世々の歌びと 鎌倉文庫 昭24.9  
 \*日本文学啓蒙 朝日新聞社 昭25.2  
 \*かぶき讃 創元社 昭28.2
- 日本芸能史ノート 中央公論社 昭32.6  
 日本文学史ノート1 中央公論社 昭32.10  
 日本文学史ノート2 中央公論社 昭32.12  
 国文学概論ノート 中央公論社 昭33.10
- 小山内薫  
 夢見草 本郷書院 明39.11  
 窓 春陽堂 明41.8  
 演劇新潮 博文館 明41.12  
 蝶 水野書店 明42.2  
 決闘 チェホフ著 梁江堂書房 明43.4  
 笛 春陽堂 明43.7  
 演劇新声 東雲堂 明45.1  
 霧積(現代文芸叢書12) 春陽堂 大2.3〔5版〕  
 崑 靱山書店 大2.3  
 一里塚 植竹書院 大4.5  
 演劇論集 日東堂 大5.6  
 江島生島(情話新集11) 新潮社 大5.10  
 就眠前 平和出版社 大6.2  
 北欧旅日記 春陽堂 大6.7  
 \*旧劇と新劇 玄文社 大8.1  
 息子(三田文学叢書3) 東光閣 大13.1  
 足拍子 プラトン社 大13.7  
 芝居入門 プラトン社 大13.12  
 森有禮 改造社 大15.8  
 大川端 春陽堂 昭2.10  
 演出者の手記 洗林堂 昭17.10〔2版〕  
 舞台芸術(悲劇喜劇選書1) 早川書房 昭23.1
- 太田咲太郎  
 ゴラとセザンヌ 三田文学出版部 昭17.12
- 佐藤春夫  
 都会の憂鬱 新潮社 大12.1  
 暮春挿話 明窓社 大13.6  
 窓展く 改造社 大15.4  
 \*維納の殺人容疑者 小山書店 昭8.9  
 絵入 みよ子 青果堂 昭8.11  
 ほるとがる文 マリアンナ著 竹村書房 昭9.4  
 尖塔登攀記 小泉八雲作 白水社 昭9.11  
 我が生長 新小説社 昭10.10  
 霧社 昭森社 昭11.7  
 むささびの冊子 人文書院 昭12.11  
 東天紅 中央公論社 昭13.10  
 打出の小槌 書物展望社 昭14.8  
 風雲 宝文館 昭16.8  
 杏の実をくれる娘 昭和書房 昭16.9  
 支那雑記 大道書房 昭16.10

小杯余瀝集 起山房 昭17 9  
備斎雜記 千歳書房 昭17 12  
大正文学作家論 下 宇野浩二共編 小学館 昭  
18. 1  
明治文学作家論 上 宇野浩二共編 小学館 昭  
18. 3  
昭和文学作家論 下 宇野浩二共編 小学館 昭  
18. 6  
大正文学作家論 上 宇野浩二共編 小学館 昭  
18. 9  
明治文学作家論 下 宇野浩二共編 小学館 昭  
18. 12  
昭和文学作家論 上 宇野浩二共編 小学館 昭  
19. 4  
佐久の草笛 東京出版社 昭21. 9  
日本文芸の道 新潮社 昭21. 10  
別れざる妻に与ふる書 東京出版会社 昭23. 2  
\*文芸他山の石 好学社 昭23. 3  
\*青春の自画像 共立書房 昭23. 8  
風流永露集 毎日新聞社 昭24. 7  
日照雨 講談社 昭28. 12  
品子曼陀羅 講談社 昭30. 1  
人生の楽事 講談社 昭31. 9  
前途展く 講談社 昭33. 2  
観潮楼附近 三笠書房 昭32. 5  
わんぱく時代 講談社 昭33. 6  
日本の風景 新潮社 昭34. 7  
わが竜之介像 有信堂 昭35. 6  
詩の本 有信堂 昭35. 6  
現代五人集(現代詩集2) 有信堂 昭35. 7  
望郷の賦 修道社 昭36. 5  
仙女の庭 富山房 昭36. 11  
史的断片権勢の鬼ども 人物往来社 昭37 3  
詩文半世紀 読売新聞社 昭38. 8  
光の帯 講談社 昭39. 2  
\*殉情詩集 複原版 大和書房 昭41. 11

#### 沢木四方吉

美術の都 日本美術学院 大6. 11  
レオナルド ダ ヴィンチ 東光閣書院 大14.7  
改版美術の都 東光閣書院 大15. 2

#### 庄司総一

ロレンスの生涯 東和社 昭25. 12  
聖なる恐怖 作品社 昭31. 7  
しびれ 光書房 昭34. 5

#### 杉山平助

米河のあくび 日本評論社 昭9. 12  
文学的自叙伝 中央論社 昭11. 1  
現代日本観 三笠書房 昭13. 3  
支那と支那人と日本 改造社 昭13. 3  
悲しきいのち 改造社 昭15. 10  
ついに来たる日 萬里閣 昭16. 9  
文芸五十年史 鱗書房 昭17 11

#### 高橋広江

ヴァレリーの世界(生活選書15) 生活社 昭18.5  
虚無と文化 大丸出版社 昭24. 2

#### 高橋誠一郎

\*経済学史研究 大鏡閣 大9. 10  
\*シイニオア 経済学 浜田恒一共訳 岩波書店 昭  
4. 8  
\*重商主義経済学説研究 改造社 昭7 11  
\*福沢先生伝(偉人伝全集) 改造社 昭8. 6  
\*経済学史 上 (経済学大系6) 日本評論社 昭  
12. 2  
\*経済原論 慶応出版社 昭14. 6  
\*王城山荘随筆 三田文学出版部 昭16. 12  
\*古版西洋経済書解題 慶応出版社 昭18. 6  
\*大磯菴記 理想社 昭19. 2  
\*福沢論吉(日本の経済学者・人と学説) 実業之日  
本社 昭19. 2  
\*西洋経済古書漫筆 好学社 昭22. 6  
\*浮世絵講話 好学社 昭23. 7  
\*わがことひとのこと 慶応通信 昭30. 6  
結婚指環(読売新書) 読売新聞社 昭30. 8  
\*経済学 わが師わが友 日本評論新社 昭31. 6

#### 戸川秋骨

英文訳註 世捨人 ステイブンソン作 博文館 明  
36. 3  
西詞余情 佐久良書房 明41. 2〔3版〕  
先覚(泰西名著文庫) メレジュコーフスキイ著  
国民文庫刊行会 大4. 9  
楽天地獄(現代ユウモア全集3) 現代ユウモア全  
集刊行会 昭4. 4  
能楽礼讃 大岡山書店 昭6. 1  
都会情景 第一書房 昭8. 12  
朝食前のレセプション 第一書房 昭12. 12  
能楽鑑賞 謡曲界 昭13. 3〔2版〕  
改訂版 神国日本 小泉八雲著 田部隆次共訳 第  
一書房 昭17 4

津村信夫

- さらば夏の光りよ 矢代書店 昭23. 1
- \*戸隠の絵本(津村信夫散文集1) 珊瑚書房 昭40. 11
- \*荒地野菊(津村信夫散文集2) 珊瑚書房 昭40. 12

上田 敏

- 文学論集 春陽堂 明34. 12
- 詩聖だんて 金港堂 明34. 12
- 最近海外文学 文友館 明35. 3〔2版〕
- 最近海外文学 続篇 文友館 昭35. 3
- 独語と対語 弘学館 大4. 7
- 小唄 阿蘭陀書房 大4. 10
- 現代の芸術 新村出編 実業之日本社 大6. 5
- \*牧羊神 文淵堂 大9. 10

山川方夫

- 日々の死 平凡出版社 昭34. 5
- 長くて短い一年 光風社 昭39. 5
- トコという男 早川書房 昭40. 10

矢野龍溪

- 英米礼記 丸家善七 明11. 5
- 世界に於ける日本の将来 近事画報社 明38. 3〔2版〕

矢崎 弾

- 新文学の環境 紀伊国屋 昭9. 11
- 過渡期文芸の断層 昭森社 昭12. 4
- 文芸の日本的形成 山雅房 昭16. 2
- 転形期文芸の羽搏き 大沢築地書店 昭16. 12
- 三代の女性 若い人社 昭17. 10
- 近代自我の日本的形成 鎌倉書房 昭18. 7

与謝野寛

- 巴里より 与謝野晶子共著 金尾文淵堂 大3. 5
- リラの花 東雲堂 大3. 11
- 鴉と雨 東京新詩社 大4. 8
- 霧島の歌 与謝野晶子共著 改造社 昭4. 12
- 菜花集 与謝野晶子編 金尾文淵堂 昭16. 5



## 図 書 館 略 史

文久2年幕府使節の随員として渡欧の際、福沢先生は、セント・ペテルスブルグや、パリの図書館を参観され、そのときの見聞は慶応2年刊の「西洋事情」初篇に「文庫」（ビブリオテーキ）として西洋における公開図書館の紹介となった。また、わが国最初の公立公開図書館である京都の集書院の設立にも先生の意見が預って力があつたといわれる。現在、本館が大学図書館としては異例の一般公開を実行しているのも、この福沢先生の精神を継承しているのである。

とはいえ、新銭座の校舎では講堂の片隅にある2台の本箱が本館の萌芽であり、明治4年現在のキャンパスに移ったときにも1室のみであった。しかし、同年起草された「慶應義塾社中の約束」の中に、書籍出納規則があり、蔵書目録、貸出日、貸出法、借覧料、破損本の弁償の規定があり、すでに近代図書館の性格を備えているので、この講堂の一部、20畳ばかりの月波楼が本館の濫觴といえる。

明治22年、塾員中村道太の寄贈によって煉瓦積二階建の当時としては見事な講堂ができ図書室もその一部を占めることになった。現在の塾監局の建物のあるところである。明治23年、大学部を設置するにおよび、それまで図書購入に当たっていた門野幾之進に代わって新任の文科のリスカム教授、理財科のドロップス教授、法律科のウィグモア教授が指導して欧米から多く書籍を購入するようになった。明治31年9月、普通部講師管学応がはじめて図書係を兼任し、係員も増し、その後を継いだ平山幹次が筆写による図書目録を作った。

明治38年4月、大学部教員田中一貞が図書館監督を兼任し、館名を慶應義塾図書館と定めた。監督というのは館長のことで、昭和19年、館長と改めるまで永くこの名称が残った。

田中監督は本塾文科卒業後、ユール大学に学び、ヨーロッパを巡って、本塾では社会学を教えた。監督就任後、当時塾内外にわき上った、創立五十年に当る明治40年を期して記念図書館を建設したいという声に呼応したものであろうか、「慶應義塾学報」明治39年6月15日号に「図書館建築について」と題して図書館建築についての見識を示した。ついに114人の発起人の名を連ねた「図書館建設趣味書」もできて募金が始められ、曾根中条建築事務所の設計により、42年6月から45年4月までの日時を費して現在の図書館の本体は完成した。

建物の様式は欧米の大学に多いゴシック式を近代的にやや和らげたもので、閲覧者の机から事務用の椅子、入館券にいたるまでその様式に依り、一般公開も当時からで、義塾当局および監督の見識を示すものであろう。和田英作美術学校教授の原案により、アメリカで腕を磨いてきた小川三知の作になる、封建時代を表わす甲冑武者が西洋文明を表わす女神に道をゆずる正面階段の大ステインド・グラスは、戦災で喪われるまで、入館者に慶應義塾の建学精神を物語っていた。書庫も当時アメリカで最も新しいとされたプール式とスタック式を折衷し、収書能力といい、閲覧者収容能力といい、最新の大図書館であった。

このように本館の基礎を築いた田中監督の後、占部百太郎、小泉信三、高橋誠一郎、野村兼太郎の各教授が監督となり、昭和19年、野村教授の在任中に館長と改められた。それぞれの学部における花形教授が平均10年に近い任期の間に蒐書・経営に手腕を揮ったのであるから、アダム・スミスの古版本、英国東印度会社の史料、星享文庫、英国々会議事録、福沢文庫、田中萃一郎文庫、小山内薫文庫、望月軍四郎氏の基金により中国関係の書籍を蒐めた望月文庫、高橋箒庵文庫、泉鏡花の遺稿、遺品等本館の誇とするコレクションがしだいに書架に加えられた。

戦火が本土に及び、東京が空襲にさらされるや、塾当局の措置によって貴重書の疎開が行なわれた。アメリカの空襲用地図には、貴重な文献あり、として徐外の印しが付けられていたが、昭和20年5月焼夷弾の見舞を受けて屋根が焼け抜けた。未整理の水上滝太郎文庫、馬場孤蝶文庫を喪ったのは憾多いが、蔵書の大部分が無事であったのは幸であった。戦後応急の復旧工事がなされ、創立百年を記念して36年には積層式による新書庫も増築され、レファレンス・ルームも拡張され、書庫内の読書室も設けられた。館長は、引つづき高村象平、前原光雄、佐藤朔教授である。

---

## 八角塔

### 第 1 号

昭和42年7月1日 発行

編集兼発行人 石川 博 道

発行所 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾図書館

電話 三田 (453) 2111 (大代表)

---